



物流企業で初の本格稼働を開始予定

鴻池運輸 東海支店が「燃料電池フォークリフト」2台を導入

環境性能と利便性を備えた（株）豊田自動織機製

2018年2月1日  
鴻池運輸株式会社

鴻池運輸株式会社(本社：大阪市中央区、代表取締役社長 鴻池 忠彦、以下、鴻池運輸)は、物流企業で初めて、(株)豊田自動織機（以下、豊田自動織機）製の燃料電池フォークリフト（以下、FCFL）2台を、鴻池運輸 東海支店 名古屋西営業所管内の高浜事業所に導入し、まもなく本格稼働を開始する予定です。

FCFL は水素を燃料として発電・稼働するため、稼働時に CO<sub>2</sub>や環境負荷物質を排出しない環境性能と、3分程度で燃料充填が完了するなど高い利便性を備えており、今後も KONOIKE グループとして、物流現場などへの積極的な導入拡大を検討してまいります。

KONOIKE グループは「自然と人間の共存につとめ、地球環境の保全と未来社会の健全な発展に貢献します」を経営指針の一つに掲げ、環境負荷低減や省資源、省エネルギーに貢献できる事業活動に積極的に取り組んでいます。個々の日常業務においては、環境負荷低減のための業務品質や技術の向上、省エネ運転の推進など環境保全推進体制の維持と改善に努めるとともに、グループの事業活動に当たっては環境マネジメントシステム（ISO14001、グリーン経営ほか）の運用、汚染予防やエネルギー・資源の有効活用、リサイクルの推進と廃棄物の削減、グリーン購入の推進などにより、資源循環型社会、低炭素社会（脱炭素社会）実現への貢献を目指しています。また、環境負荷の少ない自動車や荷役車両の導入投資を積極的に進めており、今回の FCFL の導入はその一環となります。

なお、今回の FCFL は、環境省の二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（再エネ等を活用した水素社会推進事業）と、愛知県燃料電池産業車両導入費補助金を活用して導入したものです。

**（報道関係者様お問合せ先） 鴻池運輸(株) 岩切、古屋、竺原 tel:03-3575-5753**

■ 鴻池運輸株式会社の概要

商号	鴻池運輸株式会社 ※東証1部	代表者	代表取締役社長 鴻池 忠彦
大阪本社	大阪市中央区伏見町4-3-9	東京本社	東京都中央区銀座6-10-1
創業	1880（明治13）年5月	会社設立	1945（昭和20）年5月30日
資本金	1,710百万円	従業員数	約22,000名（連結）
売上高	258,332百万円（連結、17年3月期）	営業利益	10,232百万円（連結、17年3月期）
事業内容	生産工程サービス、一般物流サービス、国際物流サービス、医療関連サービス、ファッション&アパレルサービス、空港関連サービス、定温物流サービス、環境関連サービス、エンジニアリングサービス、エコエネルギーサービス		

## ■納入された FCFL



## ■ご参考

※2016年7月26日 豊田自動織機 ニュースリリースより引用

(<https://www.toyota-shokki.co.jp/news/release/2016/07/26/001318/>)

### 1. 燃料電池フォークリフト (FCFL) の特長

#### 1) 高い環境性能

フォークリフト稼働中の CO<sub>2</sub> 排出量ゼロ

#### 2) 作業効率の向上

約3分間の水素充填で、連続稼働可能

#### 3) 外部給電機能

AC100V コンセントを搭載し、電動工具用電源や、非常用電源としても使用可能

### 2. 燃料電池システム仕様

入出力	(連続) 8kW	(最大) 32kW	—
システム電圧	48V	—	—
水素	(充填圧) 35MPa	(搭載量) 1.2 kg	(充填時間) 3分間
稼働時間※	8時間	—	—
電源機能	AC100V	1kW×15時間	—

※豊田自動織機電動フォークリフト稼働時間測定方法により算出

以上